

学習指導案（全6時間中の第2時間目）

(1) 本時の学習指導目標

- ・場面設定を読み取り、「めり」「見る」などの視覚表現が登場する理由を理解する。
- ・接続助詞に注目して短いまとまりに区切りながら、正確な解釈をする。

(2) 本時の展開

- ・前時には、この「北山の垣間見」までのあらすじの説明と、第一段落～第二段落の音読、及び、登場人物の確認（教科書掲載の「源氏物語絵色紙帖」も活用）、『王朝語辞典』（東京大学出版会、2000）を使った「垣間見」の説明などを行っている。

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入① 5分	○単語テスト	○2分間で解答、3分間で解説・自己採点。	○回収し得点を記録する。(知識・理解)
導入② 8分	○登場人物を確認する。 ○第一～二段落を斉読する。	○前時の復習。登場人物を挙げさせることで、簡単に本文に目を通させる。	○本文を黙読・音読している。(関心・意欲・態度)
展開① 20分	○場面設定を確認する。 板書例 ＜場面＞ ○When : 夕暮れ(春) ○Where : かの小柴垣のもと ○Who : 光源氏・惟光朝臣 ○What : 立ち出で給ふのぞき給へば ○Why : 日もいと長きにつれづれなれば ○How : 霞みたるにまぎれて ↓ ○結果 : 尼なりけり ○教科書の挿絵を使って、太陽の位置を考える。 ○場面設定の妙を考える。 ○垣間見に伴う表現を見つける。 ○「推定の助動詞」について復習し、「花奉るめり」の訳を考える。	○「5W1H」を確認する。 ○5W1Hに相当する語句を指名して答えさせる。指名は座席順に行う。 ○「かの小柴垣」について説明する。「小柴垣」は、教科書の挿絵を参照させる。 ○「のぞき給へば」をもとに、「垣間見」について確認する。 ○「源氏の姿は尼君たちから～、尼君たちの姿は源氏から～」という形にまとめさせる。 ○「花奉るめり」「～見えず」「～見給ふ」 ○「めり」は基本的には「～ヨウダ(推定)」であるが、ここは「～見エル」くらいが適当である。	○本文を繰り返し黙読している。(関心・意欲・態度)(思考・判断・表現) ○課題に対して積極的に向き合っている。(関心・意欲・態度) ○自分の考えを表現しようとしている。(関心・意欲・態度)(思考・判断・表現) ○基本的文法事項を身につけている。(知識・理解)
展開② 10分	○第一段落を、接続助詞に着目してパーツに分け、主語に注意しながら現代語訳する。 ○訳出時の主な注意点 ①「尼なりけり」の「けり」(詠嘆)から読み取れる、光源氏的心情を考える。 ②「今めかしきものかな」は、何に対するどのような評価か考える。 ③「女子」の描写の印象を考える。 ④「山吹などの萎えたる」の「の」の用法を確認する。	○生徒を指名して訳させる。 ○使用している古文単語集との関連を意識させ、復習時に単語集を活用できるようにする。 ○若い女性を期待したのに、裏切れた思いが表現されている。 ○見慣れない尼姿(切り下げられた髪)の女性に対する新鮮な感動が背景にある。 ○源氏物語で走る姫君が登場する場面はここしかない。明るい生命の輝きが感じられる。	○正確に現代語訳することができる。(技能) ○基本的語彙を身につけている。(知識・理解) ○課題に対して積極的に向き合っている。(関心・意欲・態度)
まとめ 2分	○次回授業範囲、内容を予告する。		